

森づくりワークショップによる参加型「千年の森」活動プログラムづくりについて

Design for the Participated “Sennen-no-Mori” Activity Program
by Work-Shop Method for the Forest

花岡史恵**、澤田俊明**、鎌田 磨人***、福田景子**、松村俊憲****

By Fumie HANAOKA Toshiaki SAWADA Mahito KAMADA Keiko FUKUDA Toshinori MATSUMURA

1. はじめに

徳島県では、平成 13 年度より、徳島県勝浦郡上勝町に位置する高丸山を中心とした周辺地域を拠点とする「高丸山千年の森づくり推進事業」が策定された。平成 14 年度には、千年の森づくりの拠点施設である「千年の森ふれあい館」の建設と同時に、千年の森活用のための活動プログラムについての検討が市民参加により行われた。本研究では、森づくりワークショップを導入して策定された参加型千年の森活動プログラム策定の経緯と、活動プログラムの概要を報告する。

表 2 高丸山千年の森づくりの基本理念及び基本方針

基本理念	<ul style="list-style-type: none"> ・ いつの時代の要請にも対応できる森 ・ 森と人とのシンボルとなる森 ・ 県民が誇りに思える、地域のシンボルとなる森
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森と人との共生関係を考える場をつくる ・ 【森に親しむ】散策、ネイチャーゲーム、写生、オリエンテーリング、スポーツ、山登り、森の祭りへの参加、等 ・ 【森に学ぶ】植物観察、森林教室、炭焼き体験、野鳥観察、昆虫観察、森の恩恵の探索、木工教室、等 ・ 【森を育てる】森づくりボランティア、林業作業研修、森林保護活動、パトロール等 県民参加の森づくりを進める 森づくりを通じた多様な交流を行う

2. 「高丸山千年の森づくり」の概要

徳島県では、平成 13 年度に、徳島県勝浦郡上勝町に位置する高丸山を中心とした周辺地域を拠点に、「高丸山千年の森づくり推進事業」がスタートした。推進事業では、検討委員会の発足により、千年の森づくりの基本理念や基本方針等が策定された。高丸山千年の森づくり整備が行われる面積を表 1 に示し、高丸山千年の森づくりの基本理念と基本方針を表 2 に示す。また、千年の森づくりの概要を図 1 に示す。

表 1 高丸山千年の森づくり整備面積

整備ゾーン	面積
保全ゾーン	24.5ha
育成ゾーン	29.0ha
協力ゾーン	63.0ha
	計 116.5ha

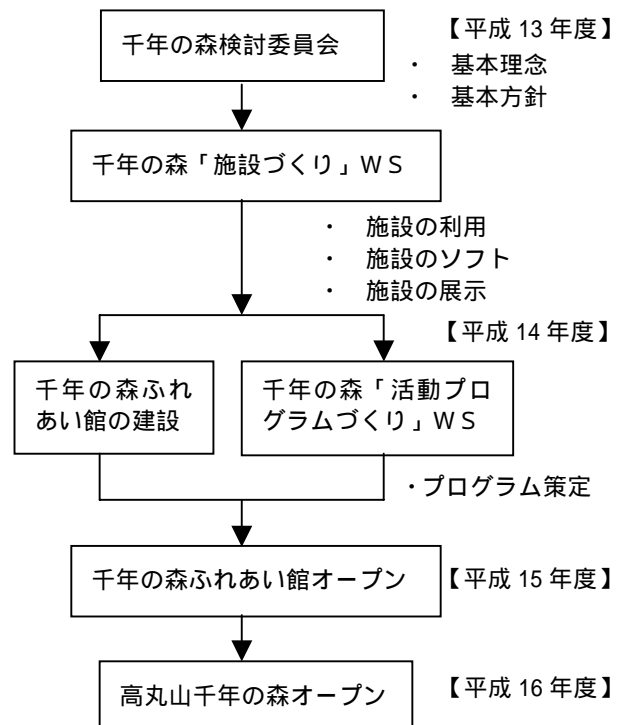


図 1 千年の森づくりの概要

*キーワード 空間整備・設計、森づくりプログラム
**正員、環境とまちづくり(〒771-4501 徳島県勝浦郡上勝町福原川北 30 番地、TEL 08854-4-6290 FAX 08854-4-6291)
***正員、工博、徳島大学工学部(〒770-8506 徳島市南常三島町 2-1、TEL/FAX 088-656-9134)
****徳島県農林水産部(〒770-8570 徳島市万代町 1 丁目 1 番地、TEL 088-621-2482 FAX 088-621-2861)

3. 千年の森「施設づくり」ワークショップ

1) 施設づくりワークショップの概要

千年の森づくり推進事業では、その活動拠点施設として「千年の森ふれあい館」の建設が行われた。この千年の森ふれあい館の建設にあたり、千年の森ふれあい館の利用、活動ソフト、展示の内容や展示の仕方等についての意見交換を行うための、千年の森「施設づくり」ワークショップ（以下、施設づくりWSと略記）が開催された。これは、千年の森づくりの基本理念および基本方針に示される「県民参加の森づくり」を施設づくりから活かしたものである。施設づくりWSは、検討委員および上勝町民を主体として、全3回開催された。施設づくりWSのスケジュールを表3に示す。

表3 千年の森「施設づくり」WSのスケジュール

WS	開催日	テーマ	参加者数
第1回	H.13.10.6	千年の森ふれあい館の利用を考えよう	16名
第2回	H.14.2.2	千年の森ふれあい館のソフト（利用・活動）を考えよう	19名
第3回	H.14.3.16	千年の森ふれあい館の展示を考えよう	20名

2) 施設づくりワークショップの結果

第1回施設づくりWSでは、千年の森ふれあい館（以下、ふれあい館と略記）の利用について検討を行った。ここでは、ふれあい館の利用が、従来の展示館としての利用よりも千年の森の活動拠点施設としての利用に期待する意見が多く出された。

第2回施設づくりWSでは、ふれあい館のソフトについて検討を行った。ここでは、主に、千年の森にふさわしい利用の観点から、「森づくりに関すること」、「環境教育に関すること」、また、県民参加の森づくりとしての観点から「参加交流に関すること」等に意見が集約された。

第3回施設づくりWSでは、ふれあい館の展示について検討を行った。ここでは、展示物の配置について、固定した展示ではなく、可動式の展示ケース等により、ふれあい館全体を活動スペースとして利用できるものとしての提案がなされた。

当初、ふれあい館建設における計画は「展示」が

主として位置づけられていたが、今回の施設づくりWSを通して、「活動」が主として位置づけられる計画として、活動しやすい部屋の配置や間取り等についても提案され、それらの意見が、ふれあい館建設に反映された。

4. 千年の森「活動プログラムづくり」ワークショップ

1) 活動プログラムづくりワークショップの概要

平成14年度における千年の森づくり推進において、千年の森活動プログラムを策定することを目的として、昨年度の施設づくりWSメンバーを主とした、ワークショップ方式による「千年の森活動プログラムをつくる会」（以下、活動プログラムづくりWSと略記）が発足された。この活動プログラムづくりWSでは、施設づくりWSにおいて意見の多かった「森づくり」「環境教育」「参加交流」の3つのキーワードにより、それぞれを検討部会に分けて、活動プログラムが検討された。検討部会のメンバーは、昨年度の施設づくりWS参加者を含め町内外から有志を募って決定した。活動プログラムづくりWSのメンバー構成を表4に示し、活動プログラムづくりWSのスケジュールを表5に示す。

表4 千年の森活動プログラムづくりWSメンバー構成

	町外参加者	町内参加者	計
森づくり検討部会	7名(2名)	3名(2名)	10名(4名)
環境教育検討部会	4名(3名)	5名(4名)	9名(7名)
参加交流検討部会	2名(2名)	6名(4名)	8名(6名)
計	13名(7名)	14名(10名)	27名(17名)

()内人数は、メンバーの内、施設づくりWSに参加した人数

表5 千年の森活動プログラムづくりWSスケジュール

WS	開催日	テーマ	参加者数
第1回	H.14.11.25	活動プログラム例の紹介 活動プログラムカード	22名
第2回	H.14.12.25	活動プログラムシートの作成	23名
第3回	H.15.2.20	活動プログラムの紹介 年間スケジュール 千年の森オープン記念行事(素案)	20名

2) 第1回活動プログラムづくりWS

第1回活動プログラムづくりWSでは、平成13年度の施設づくりWSにより抽出された活動プログラム項目の例や他県で実施されている既存の活動プログラム項目等を紹介するとともに、今回のWSメンバーによる活動プログラム項目の追加を行い、千年の森活動にふさわしい活動プログラム項目をそれぞれカードに書き出した。活動プログラムは、大きく、調査活動プログラム、体験活動プログラム、人材育成・組織づくりプログラム、安全プログラム、PR・広報プログラム、の5つに分類し、分類ごとに、書き出された活動プログラム項目を整理した。ここでは、平成13年度の検討とあわせて、79個のプログラム項目があげられた。5つの分類ごとに抽出されたプログラム項目数を表6に示す。

表6 5つの分類ごとに抽出されたプログラム項目数

分類名	項目数		
	昨年	今回	計
調査活動プログラム	10	22	32
体験活動プログラム	12	14	26
人材育成・組織づくりプログラム	6	5	11
安全プログラム	3	1	4
PR・広報プログラム	3	3	6
計	34	45	79

3) 第2回活動プログラムづくりWS

第2回活動プログラムづくりWSでは、第1回WSにおいて、検討部会ごとに整理された活動プログラム項目から3つずつ選択し、活動内容等を「活動プログラムシート」にまとめた。この活動プログラムシートでは、コミュニティビジネスの観点と安全対策の観点を含めた項目を設定した。また、このシート内容の検討を充実させることで、実際の活動に即したプログラムの活用ができるものとして作成した。表7に、活動プログラムシートの項目を示す。

表7 活動プログラムシートの項目

活動プログラムシートの項目	
プログラム名	プログラム立案日
プログラム立案者	プログラムナンバー
プログラムのねらい	開催時期(いつ)
開催場所(どこで)	対象者(だれを)
リスクマネジメント(安全対策)	
プログラム概要	
・内容	・主催者等
・準備するもの	・講師またはリーダー

また、表8に、第2回活動プログラムづくりWSで各検討部会が選択したプログラム活動項目を示す。

表8 第2回WSで検討部会が選択した活動項目

検討部会名	活動項目
森づくり検討部会	森ができるまで!! 調査 山ではいけないこと調べ けもの道マップづくり
環境教育検討部会	環境教育指導者育成プログラム 湧き水の調査 巨木を求めて山歩きプログラム
参加交流検討部会	高丸山祭りスタッフ体験 時代の餅づくり食べ比べ体験 樹木の里親体験活動

4) 第3回活動プログラムづくりWS

第3回活動プログラムづくりWSでは、あらかじめ個人で考えていた活動プログラム項目について、検討部会で話し合い、活動プログラムシートにまとめた。ここでは、森づくり検討部会の15項目、環境教育部会の5項目、参加交流部会の11項目が、それぞれ活動プログラムシートにまとめられた。さらに、千年の森活動の年間スケジュール、また千年の森オープン記念行事(素案)についても検討を行った。千年の森活動の年間スケジュールとしては、今回策定された活動プログラムを時期ごとに分け、配分することで、年間のスケジュールがほぼ埋まる状態となった。また、オープン記念行事(素案)では、ホラ貝によるオープニング吹奏、時代(ときよ)の餅なげ、オープニングフリートーク、祭囃子競演、ウォーキング大会、樹木里親制度などの意見が出された。千年の森ふれあい館オープンは平成15年10月頃の予定とし、高丸山千年の森全体のオープンは平成16年4月頃の予定としている。

5) 千年の森活動プログラム

千年の森活動プログラムづくりWSでは、全3回の検討会の開催により、第2回WSで、9個の活動プログラム、第3回WSでは、31個の活動プログラムが検討され、最終的に40個の活動プログラムとして策定された。これらは、活動プログラムシートに、活動内容等が整理されている。千年の森活動プログラムづくりWSにおいて策定された40個のプログラム名を表9に示す。また、図2に、活動プログラムシートの記入例を示す。

表 9 千年の森活動プログラム

プログラムNO	プログラム名	プログラムNO	プログラム名
SM-PG001	森ができるまで!!調査	SM-PG021	宝さがしゲーム
SM-PG002	山ではいけないこと調べ	SM-PG022	たねをさがそう!
SM-PG003	けもの道マップづくり	SM-PG023	千年の森プログラムヒアリング
SM-PG004	環境教育指導者育成プログラム	SM-PG024	高丸山と棚田デジカメ講習で本を出版
SM-PG005	わき水調査	SM-PG025	わたしの木のそだち
SM-PG006	巨木を求めてテクテクツアー	SM-PG026	山野草、キノコを食する会
SM-PG007	高丸山祭りスタッフ体験	SM-PG027	間伐材の温もりを我が家に親子工作教室
SM-PG008	時代の餅づくり食べ比べ体験	SM-PG028	癒し塾
SM-PG009	樹木の里親体験活動	SM-PG029	おやこでイタダキマス
SM-PG010	森の女神(山の神)の任命	SM-PG030	木工クラフト教室(おし花)
SM-PG011	メモリアルツリーの設置	SM-PG031	里山体感ツアー
SM-PG012	キノコの森づくりプログラム	SM-PG032	ヤッホー調査隊ツアー
SM-PG013	来館(来山)ノートの設置	SM-PG033	間伐材工作、指導者養成
SM-PG014	森の達人の決定	SM-PG034	石積みボランティア
SM-PG015	わさび田遊山(ゆさん)	SM-PG035	高丸山共生体感
SM-PG016	小枝、樹皮、つるなどの細工	SM-PG036	高丸山植物特別調査
SM-PG017	森の創作劇プログラム	SM-PG037	七輪陶芸
SM-PG018	丸太からつくる手づくり本棚	SM-PG038	シカウォッチング
SM-PG019	本の出版	SM-PG039	森の語り部
SM-PG020	先人の知恵、再発見!	SM-PG040	子供による子供のための体験プログラム作り



図 2 活動プログラムシートの記入例

5 . 今後の課題

1) 活動プログラムの事前検証等

平成 14 年度の「千年の森活動プログラムづくりWS」により、千年の森活動における活動プログラムが策定されたが、活動プログラムによる活動の実施において、種々の課題が生ずると思われる。プログラムの適応性、プログラムに応じた適切な場所や時期の選定、プログラムに必要な備品の調達、

講師やリーダーの選定と依頼、安全対策を含めたりスクマネジメント知識の習得、管理者のプログラムをプロデュース及びコーディネートする能力、参加者を募るPR・広報の手段、といったものを事前に検証・確認する必要がある。

2) 活動プログラムの運営システムと組織づくり

活動プログラムを活用する上においては、その運営システムの確立と組織づくりを行う必要がある。そのためには、人材確保・人材育成に努め、「千年の森活動プログラムづくりWS」参加者を始めとする、地域住民を含む市民と行政、専門家等の協働により、活動母体の組織化を図り、継続・発展していくことが必要である。

3) 活動プログラムの追加修正等

活動プログラムを活用した活動が開始されると、現場での対応や予期せぬ問題等、プログラムの遂行が困難になる場合も生ずる恐れがある。その場合には、活動プログラムシートの追加修正等を行い、活動プログラムを更新することで、常に、活動プログラムが千年の森活動において、よりよい活用がされるよう、見直していく必要がある。また、今後さらなる活動プログラムの開発も必要となってくる。

6 . おわりに

本研究における千年の森活動プログラムは、平成 13 年度の「施設づくりWS」、平成 14 年度の「活動プログラムづくりWS」を通して、地域住民を含む市民参加により策定された。平成 16 年 4 月に予定されている高丸山千年の森オープンに向けて、今後は、活動プログラムの活用と運営において、活動に適切な運営システムやそれに関わる人材確保と人材育成が課題となる。また、今後の適切なプログラムの活用のためには、「活動プログラムづくりWS」メンバーを始め、地域住民を含む市民と行政、専門家等の協働による活動母体となる組織の確立とその継続・発展が望まれる。